

山形県における農業は、地域経済の基盤となる重要な産業であり、生産、加工、流通、販売のみならず、観光や文化との連携を通して、地域の経済を支える重要な役割を担っております。

本県では、「つや姫」「雪若丸」「はえぬき」などの良食味米をはじめ、「佐藤錦」「紅秀峰」「やまがた紅王」などのさくらんぼや西洋なし「ラ・フランス」などの果樹、すいかやメロン、えだまめなどの野菜、バラや「啓翁桜」などの花き、さらには「総称山形牛」や銘柄豚、「やまがた地鶏」といった畜産物、また高付加価値農産加工品など、四季折々の多様な農産物が生産されています。加えて、令和9年には、高温耐性を有する水稻新品種「ゆきまんてん」のデビューが予定されるなど、競争力の高い品種開発にも積極的に取り組んでいます。

これらは、本県の持つ豊かな自然条件に加え、先人の知恵と努力による高い農業技術、さらに新品種や新技術の開発・普及、そして「つや姫」に代表されるような国内外でのブランド化など、関係者が一丸となった取り組みの成果であります。

一方で、農業現場においては、農業従事者の減少や高齢化に伴う労働力不足、地球温暖化に伴う気候変動、加えて不安定な世界情勢による原油や資材価格の高騰など、農業を取り巻く環境は著しく変化しています。

このような状況を踏まえ、本県では、令和7年3月に策定された「第5次農林水産業元気創造戦略」において、「未来を拓く『人』と『技術』が躍動する新時代の農林水産業の展開」を共通目標に掲げ、持続可能な「食料供給県やまがた」の実現を目指して、各種施策に取り組んでいるところです。

当センターでは、これまでの研究開発に加え、AIやDXなどの先端技術を活用したスマート農業の推進により、省力化・効率化と高品質生産の両立を目指した技術開発を進めていきます。さらに、新たな市場動向を踏まえた新品種の開発と普及を通して、本県農産物全体のブランド力の強化を図るなど、生産性および収益性の向上に貢献することが重要であると考えております。

今後も、多様な担い手が「誇り・夢・希望」を持って農業に取り組めるよう、生産現場のニーズに即応した技術開発と、その成果の迅速な技術移転を推進してまいりますので、今後とも皆様の御理解と御協力をお願い申し上げます。

山形県農業総合研究センター
所長 中川文彦

